

祖師先徳鑽仰大法会

伝教大師 一千二百年大遠忌群馬教区報恩法要

比叡山延暦寺根本中堂にて奉修



発行日
令和5年1月1日
発行所
高崎市中尾町1261
TEL.027 (362) 5620
天台宗群馬教区宗務所
発行人
三浦 祐俊
編集責任者
今村 孝道
印刷所
芝入印刷株式会社
TEL.027 (253) 4937



◀二頁へ続く

報恩法要参加者（三面大黒堂前）



群馬教区宗務所長

三浦 祐俊

年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。令和五年の希望に輝く新春を迎え、檀信徒の皆様にはご家族、ご親族揃って、お健やかに過ごしの事と拝察お慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症発生から四年目を迎えても、いまだ収束は見通せず、またロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮の弾道ミサイル発射など世界的事案の発生、さらには地球温暖化による気候変動とその影響により発生する自然災害など、なかなか先が見通せない状況ではありますが、事態がどのような方向に進むにしても、天台宗徒・檀信徒として今生かされている私たち、心を新たに、お大師様のご遺徳を偲び、報恩謝徳の心を持って、置かれた状況の中で最善を尽くして日々を過ごしましょう。

そして、戦争で亡くなられた方々、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に心よりお悔やみを申し上げます。

さて、本年三月三十一日を以て十一年にわたり天台宗で展開しておりました祖師先徳鑽仰大法会も結願を迎えます。群馬教区では、良き結願を迎えたくその掉尾を飾る宗祖大師様の一千二百年大遠忌群馬



群馬教区檀信徒会連盟会長

神宮 直仁

年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。檀信徒皆様と輝かしき令和五年を迎えられることを喜ばしく思います。

いまだにコロナ禍の終息は見通せませんが、どう

教区報恩法要を衆僧二十人と伝道師二十人・天台宗並びに延暦寺内局等の随喜を賜り奉修し、祖師先徳鑽仰大法会を締め括ることができ誠に有り難く感無量の極みでございます。

また、本年七月三日には伊勢崎市文化会館に於いて、第十三回「二隅を照らす運動」群馬大会（四年に一度の記念大会）を開催すべく準備を進めていますので後日ご案内申し上げます。

今年度も昨年一昨年度に続き、疫病退散ボスター・チラシを教区内寺院へお配り致しました。また、様々な情報を皆様へ発信致したく、使いやすくなりやすい群馬教区ホームページを開設しております。併せて、是非ご覧頂ければ幸いに存じます。

群馬教区並びに各種団体においては、感染症拡大に今後も気を緩めることなく、関係各位と充分協議のうえ適切に対応する所存です。

皆様におかれましては、今こそ、宗祖大師様のご精神を体して「己を忘れて他を利する」「二隅を照らす」の旗印のもと助け合い支え合い、そして、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行を防ぐため、「新しい生活様式」の実践にてお過ごし頂き、新型コロナウイルス感染症の収束と風雨順時にして、心穏やかな幸多き年であることをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

か罹患せぬよう注意して生活下さいませ。

さて、祖師先徳鑽仰大法会も檀信徒皆様のご協力により、本年三月末日の円成に向けて着実に進行しており、あらためて御礼申し上げます。

なお、根本中堂等の大改修事業は令和九年十二月まで延長となり、引き続き皆様にご支援賜るようお願い申し上げます。

令和四年十月四日、群馬教区では比叡山延暦寺根本中堂において伝教大師一千二百年大遠忌群馬教区報恩法要を奉修し、宗祖大師に対する報恩感謝を捧げ、群馬県が大師巡錫の地であることを広く周知し、後世に御事蹟を伝える決意を宝前で誓った。

群馬教区では、令和二年十月、檀信徒含め二百四十人規模の延暦寺での大遠忌群馬教区報恩法要を予定したがコロナ禍により延期。翌年も七月に計画したが感染者数増加により断念せざるを得ず、実に二年越しに法要を実現させた。

法要は、三浦祐俊宗務所長を導師に教区内役職住職十四名が出仕して営まれ、天台宗・延暦寺両内局・教区伝道師等約四十人が随喜した。



大行道（大書院前）

延暦寺会館の瑞峰の間にて集会之儀が行われた後、大行道にて根本中堂へ入堂し、特別に荘厳された中陣で、『天台のおつとめ』、『伝教大師和讃』が随喜者ともに奉読され、報恩謝徳の想いに堂内が包まれた。

法要後の式典では、祖師先徳鑽仰大法会局長を勤める阿部昌宏天台宗宗務総長が挨拶し、その後、三浦宗務所長より水尾寂芳延暦寺執行に根本中堂内陣荘厳費が奉納された。

阿部総長からは、この度の法要が営まれたこと、伝教大師巡錫ゆかりの浄法寺にて、大師尊像修繕と報恩法要が行われたことへの、御礼の言葉が贈られた上で、「昨今の社会情勢はまさに末法の世」と言及し、「現状を打破するため、宗祖大師のご精神を発揚するのが宗徒及び檀信徒の使命」であり、「一隅を照らす」の旗印を高く掲げ、生きとし生けるもの全てが安定を保ち平和を享受する世界へと邁進したい」と想いを述べた。



大行道（一隅会館前）

また、水尾執行からは、「宗祖大師の五十年ごとの大遠忌は自身を鼓舞し、報恩の心を発し、次の世代に引き継ぐ大事な節目であり、群馬教区の率先垂範の行動に期待申し上げます」と述べた上で、法要に対するお祝いとお礼の言葉が贈られた。

三浦宗務所長は、伝教大師が巡錫された群馬教区として十一年に渡る祖師先徳鑽仰大法会の結願を迎えるにあたり営まれた、教区法要円成の謝辞を述べるとともに「大遠忌を機縁に私たちは天台宗徒・檀信徒・伝道師として今を生かされていると心を新たにし、お大師さまの御遺徳を偲び報恩謝徳の心を込めて日々を過ごしていきたい」と挨拶した。

法要前日から行われていた補任祖山研修に登叡していた伝道師からは、節目の法要に随喜し、『天台のおつとめ』『伝教大師和讃』をお唱え出来たことに誇りを持ち、伝教大師のお心を実践していきたいと想いが語られた。



大行道（大坂・両内局）



報恩法要を奉修する導師並びに式衆



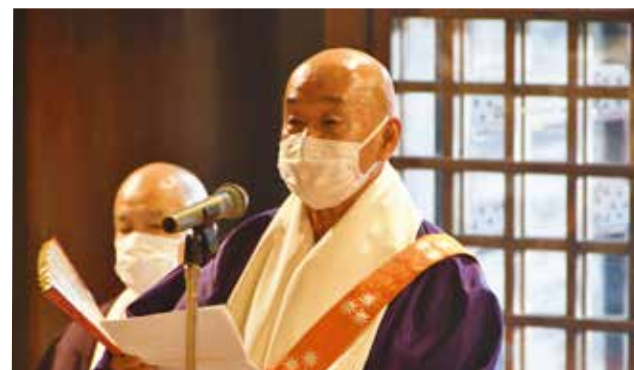
随喜の伝道師



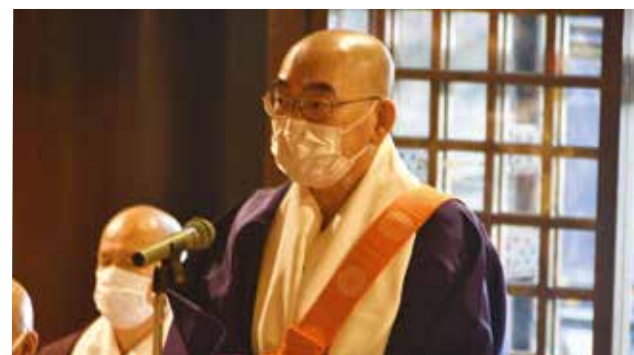
導師 法要趣旨を述べる



延暦寺執行寄付金謝辞



阿部昌宏天台宗務総長挨拶



水尾寂芳延暦寺執行挨拶



群馬天台青年会
御巢鷹山慰霊法要 奉修

群馬天台青年会は、令和四年十月十九日多野郡上野村の慰霊の園において、長諒順会長が御導師を務め、会員五名出仕のもと、昭和六十年八月十二日、乗客、乗員五百二十人が犠牲になった御巢鷹山日航機墜落事故の慰霊法要を執り行い、犠牲者の方々のご冥福をお祈りしました。



根本中堂伝教大師一千二百年大遠忌
群馬教区報恩法要 宗務所長謝辞

謝辞を述べる三浦祐俊宗務所長
今から一千二百五年前の八百十七年、宗祖大師様東国巡錫のおり、錫をとどめて下さった群馬教区として、本日、十一年にわたる天台宗祖師先徳鑽仰大法会の良き結願を迎えたく、群馬教区役職御住職御出仕のもと、群馬教区伝道師、天台宗並びに、延暦寺、両内局の皆様御随喜を賜り、伝教大師一千二百年大遠忌群馬教区報恩法要

を、お勤めできました事、誠に有難く心より御礼感謝申し上げます。有難うございます。
天台宗、宗徒檀信徒として、今生かされている私たち、心新たに、お大師様の御遺徳を偲び、報恩謝徳の心を込めて、日々を過ごし、そして、お大師様は群馬に來られましたよ、浄法寺様には大きな大きなお大師様がいらつしやいますよ、と全国津々浦々まで広く伝えてまいりたいと願っております。
結びに、天台宗並びに、延暦寺の皆様、益々のご活躍と参列の皆様御健勝を御祈念申し上げ、今後とも引き続き、群馬教区事業のご理解ご支援の程お願い致し、御礼の言葉と致します。

謹賀新年

- | | | |
|--------------|--------|-------|
| 天台宗群馬教区宗務所長 | 長福寺住職 | 三浦祐俊 |
| 天台宗宗議會議員 | 満勝寺住職 | 原徳明 |
| 天台宗宗議會議員 | 昌樂寺住職 | 綾小路乗俊 |
| 天台宗群馬教区顧問 | 遍照寺住職 | 長谷川広順 |
| 天台宗群馬教区顧問 | 西光寺住職 | 谷晃昭 |
| 天台宗群馬教区顧問 | 光巖寺住職 | 田中祥順 |
| 天台宗群馬教区顧問 | 妙見寺住職 | 小川晃豊 |
| 天台宗群馬教区宗務副所長 | 龍藏寺住職 | 眞木興空 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 三光院住職 | 安田孝廉 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 金藏寺住職 | 濱田孝暁 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 正法院住職 | 藤井祐心 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 聖徳寺住職 | 蘭実善 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 龍性寺住職 | 小作昌隆 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 藥王寺住職 | 千葉照勲 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 恩行寺住職 | 竹村興肇 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 萬福寺住職 | 小出行貴 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 光琳寺住職 | 林祐進 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 浄土院住職 | 宮崎興法 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 妙音寺住職 | 稲岡亮順 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 源正寺住職 | 瀬野晃寛 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 眞光寺副住職 | 都筑玄恭 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 龍泉寺住職 | 小山宗胤 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 正圓寺住職 | 鈴木正英 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 寶禪寺住職 | 高橋賢靖 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 正觀寺住職 | 觀月祐真 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 永徳寺住職 | 小林静順 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 吉祥寺住職 | 加藤秀樹 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 福泉寺住職 | 橋本一順 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 隨應寺住職 | 桑原弘順 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 慈照院住職 | 村中祐邦 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 法蓮寺住職 | 藤田祐公 |
| 天台宗群馬教区宗務主任 | 明聞寺住職 | 青柳興裕 |

伝道師補任祖山研修を終えて

南前橋部 安養院 須藤 剛

この度は、比叡山延暦寺にて、三日間の祖山研修に参加させていただき、誠にありがとうございました。法話、止観、礼拝行、諸堂参拝のほか、上原大阿闍梨様から御加持を授かりました。どれも心洗われる内容でした。また、二日目には、五十年に一度という記念すべき伝教大師一千二百年大遠忌群馬教区報恩法要にも参加できたことを誠に光栄に思います。

今回の研修で特に心に響いたことが二つあります。一つ目は、根本中堂に鎮座されている伝教大師様と私たちがいる位置が同じ高さであり、それはすべての人が仏の心になれることであると教えていること。ただそこに近づくには、人間の煩悩である「貪瞋癡」を振り払うことが大事であるという極的に推進していく所存でございます。



研修風景

私は今、民生委員・児童委員を仰せつかっております。人生の先輩者であるご老人には、やさしきや労りで接し、未来ある子ども達には、感謝の気持ちや前向きな心、成功の喜びなどを伝えていきたいと思えます。これからも、ますます「一隅を照らす」のご精神を社会に広めるための実践活動を伝道師として積極的に推進していく所存でございます。

合掌

南前橋部 安養院 須藤 均
令和四年十月三日より三日間の第四十七回伝道師補任祖山研修会に前橋市の安養院から参加させていただきました。今回の研修は伝教大師一千二百年大遠忌群馬教区報恩法要に参加が出来た恵まれた内容の研修でした。

研修では大書院での止観実習、根本中堂での礼拝実習、千日回峰行の一部である西塔から横川にかけて山中諸堂を参拝しながら巡る体験、音を立てずに精進料理を頂く食事。ある程度は知っていたが実際に体験することで行の大変さを感じる事ができました。また、いろいろなお話を拝聴し法話の時間では千日回峰行を達成された群馬県出身の上原大阿闍梨様のお話を伺いました。バスの中で上原大阿闍梨様の千日回峰行の様子をビデオで観せて頂いたのでお話を理解し易く良かったです。

「一隅を照らす」とは「自ら輝くことで周囲の人々を輝かせる」という教えを意識し伝道師として努めて行きたいと思えます。



研修風景

寺庭婦人会 研修会

群馬教区寺庭婦人会（今村尚枝会長）は、「伝教大師様・元三大師様報恩謝徳の旅」と題して、令和四年十月十一日に十八名の参加により三年ぶりの研修会が開催されました。

伝教大師様ゆかりの浄法寺様、又、関東三大師で知られる龍藏寺青柳大師様を参拝し、心ひとつに日々の安寧をお祈りしました。



浄法寺大師像前



龍藏寺本堂前

西前橋部	高崎部	多野部	北群馬部	沼田部	桐生部	伊勢崎部	世良田部	下仁田部	西群馬部	群馬教区布教師会会長	群馬教区延寿会会長	群馬教区民生児童委員会会長	群馬教区保護司会会長	群馬教区保育連盟会長	群馬教区民生活推進協議会会長	群馬教区檀信徒会連盟	富岡部	西前橋部	高崎部	伊勢崎部	西群馬部	桐生部	北前橋部	北群馬部	桐生部	南前橋部	北前橋部	北群馬部	
林倉寺住職	法森寺住職	金光寺住職	延命寺住職	實相院住職	榮昌寺住職	華藏寺住職	長樂寺住職	昌福寺住職	蓮華寺住職	龍善寺住職	觀音寺住職	西光寺住職	光明院内裏	長松寺住職	禪養寺住職	滿勝寺住職	大福寺住職	長松寺名誉住職	藥王寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職	長松寺住職
西林	三浦	泉慶	平川	寺行	大岡	内田	高橋	市川	紺野	門倉	角田	谷田	今村	長出	小原	轟原	長葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉	千葉
乘仁	興寛	慶厚	尚厚	玄尚	貞尚	井祐	高亮	周栄	元嗣	政憲	興憲	尚昭	尚枝	順弘	祥弘	堯明	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順	宗順

シリーズ群馬の寺々 第五十一回

桐生部
恵雲山

天王院

桐生市相生町三丁目二五
住職 小林 静伸



恵雲山天王院光松寺は、桐生市相生町にあり、本尊は阿弥陀如来立像です。寺伝によると寛文元年（一六六一年）に桐生市川内町の不老山観音寺の舜弘法印によつて開山され、当時は新福寺と称していたようです。その後、衰微してしましたが貞享三年（一六八六年）に良傳法印により中興開山され再興されました。元禄三年（一六八八年）には、新福寺と称

していたのを恵雲山天王院光松寺と改称し以後三百有余年にわたり天台の法脈をつたえています。現在の本堂は、天王院開山三百五十年の慶福事業として新築したものです。境内に歯佛様というものが祀られており、銘に聖徳二年（七一二年）に建立されたとあり、当寺



には昭和四十三年（一九六八年）に移築安置されました。この佛様にお祈りすると歯の痛みが治ると言われています。また、当寺には龍頭という仏具が江戸時代より伝えられています。龍頭とは、木または竹竿の先端に龍の頭と胴にあたるものをつけたもので、かつては葬儀の「野辺送り（葬列）」に使われた「持ち物」のひとつです。全部で五体ありボロボロに傷んでいたものを平成二十四年に修復しました。現在は出棺のさいに霊柩車までの葬列で使用しています。季節ごとに訪れる人を優しくお迎えし、地域に根ざしたお寺として親しまれています。

叙勲及び大臣表彰

瑞宝双光章

大福寺住職 堯順 師

一宗功労者表彰

住職三十年勤続

光琳寺住職 祐進 師

長泉寺住職

村上 澄順 師

施無畏寺住職

大河原庸俊 師

浄法寺住職

緑野 智彦 師

法峰寺住職

大須賀亮仁 師

明照院住職

石井 晃英 師

一宗公職歴任

極楽寺住職

小林 玄順 師

神樂寺住職

細野 順弘 師

妙音寺住職

稲岡 亮順 師

常光寺住職

堀越 教之 師

布教功労

光運寺住職 青柳 照道 師

實相院住職

大岡 玄尚 師

新住職紹介

令和四年 七月一日



西群馬部 常樂寺 小出 行賢 師

令和四年 七月十四日



北前橋部 善勝寺 藤原 慈明 師

得度

令和四年 八月二十日

富岡部 西林寺

今村 承道 師

令和四年 八月二十日

北群馬部 石原寺

千葉 照遠 師

示寂

東前橋部 正圓寺 山本 堯俊 師 令和四年七月十八日 百歳

下仁田部 中道院 三澤 芳彦 師 令和四年九月一日 八十五歳

下仁田部 霊山寺 並木 實修 師 令和四年十一月八日 八十六歳

予告

「一隅を照らす運動」年次大会

会場 JABビル

令和五年三月十日（金）

第十三回「一隅を照らす運動」群馬大会

会場 伊勢崎市文化会館

令和五年七月三日（月）